

あむーる

島根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2016年7月12日発行
第13号

No.13

校長は語る <13>

「あっぱれ」北高生

373 → 355 → 362



3年連続
日本
一!

校長 鞆嶋 弘明

平成12年3月の進路状況は素晴らしいものでした。国公立大合格者373名、私立大合格者478名、短大等合格者56名の実績は松江北高校の歴史の中でも目立つ実績で、全国国公立高等学校の中でも1番目の実績であり、中国地方では群を抜いたものでした。多くの北高生が希望に胸をふくらませこの赤山を巣立って行きました。正直な所、昨年4月3年生の成績を見た時びっくりしました。こんな成績で戦えるのかと。私も長年進路指導にたずさわってきましたので3年4月の成績を見ればおおかたの予想がつくからです。しかし3年生はこの一年間で見事な成長を遂げました。6月の総体では男女総合優勝するし、あれよあれよと言う間に群を抜いてきました。その要因を一年を振り返って述べてみます。

(1) 学校全体に危機感があった。

4月当初から心配な3年生に対し、生徒も教職員も危機感があり、その緊張感が6月に総体男女総合優勝させ、3年生を波に乗せた感があります。物事なにかを成す時は火事場の馬鹿力というか危機感が必要で、それが学校全体に漂っていた事が成功に結びついたと思います。

(2) 生徒が苦しさから逃げなかった。

3年生は苦しい成績からスタートしたにもかかわらず、決して逃げませんでした。感動しました。入試は長い戦いですからどうしても逃げたくなります。不得意科目を切ろうとしたりするものなのです。決して逃げないで3月中旬の後期受験までねばった姿勢が良かったと思います。

(3) 家庭の暖かい支援があった。

入試は長い戦いであり、その間の生徒のストレスはたいへんなものです。生徒のストレス解消の場は家庭です。その生徒を暖かく見守る家庭の御苦労もたいへんだったと思いますが、その支援が生徒を頑張らせたと思います。

(4) 部活動の実績が勢いをつけた。

文武両道を実践している本校にとって総体の男女総合優勝や合唱部の全国大会での金賞を初めとする部活動での数々の入賞が生徒や学校に自信をつけ、「これならいける」と勢いに乗せた感がします。

(5) 松江北高校の教職員が同じ方向で一致団結した事。

校長としていつも感心するのは北高の教職員はいつも献身的な働きで生徒を指導し、同じ目標で団結することです。同じ方向で動く事は簡単なようですがそうではありません。どこの学校でも教職員が50人おれば50の考え方があり、なかなか力が集中せずまとまらない事が多いのですが、北高の先生方には感動します。

このような教職員の姿勢に対し生徒がついてきた結果と言えます。特に進路指導部の進路指導に精通した卓越した指導力と3年学年会の団結は見事でした。

(6) 補習科が範を示し3年生を引張った。

補習科は生活面でもきちんとしており、また成績面でもどんどん伸ばし、見事な補習科生でした。その先輩の補習科生をめざして3年生が少しでも近づくと頑張った事が好結果につながったと思います。

以上の事が日々積み重ねられ、素晴らしい実績を残したと思います。残念ながら自分の希望を達成できなかった生徒もいますが、現在補習科等で頑張っていますので来年3月には必ず希望を達成できると確信しています。また補習科で新3年生を引張って下さい。私の理想は高いので来月3月には今年以上の実績が出るよう教職員といっしょになって頑張ります。



鞆嶋校長先生は北高3年間の在任中に、国公立大学合格者数で全国の公立高校日本一を続けておられます。**373人! 355人! 362人!**今年の北高の合格者がわずかに188人ですから、その当時からいかにすごかったかが分かります。全国各地から学校訪問が絶えませんでした。ここでは校長先生自ら勝因を分析しておられますので、よく読んでご覧下さい。現在の北高では考えられないことだらけです。

私は島根県の教員に初めて採用された平田高校で、鞆嶋先生のクラスの副担任として教員人生をスタートしました。職員室の席も隣で進学指導のイロハから時間割の作業の仕方、放課後は将棋の指導まで可愛がってもらいました。朝から晩まで献身的に生徒のために働いておられるのを目の当たりにして、教員の原点を叩きこんでいただいたと感謝しています。わざわざ津和野までお越しいただいて、「北高に帰って来い!」と声をかけていただいたことは忘れられません。北高校長を退職後、東出雲町の教育長⇒町長に転身され、心臓の手術をした僕を、時々職員室に訪ねては「大丈夫か。ムリするなよ」と激励していただいたにも関わらず、ご自分が急死なさってしまいました。葬儀に参列しながら涙していました。先生の口癖は「**当たり前のことを当たり前にするのがいかに大切で、同時にいかに難しいことか**」でした。私はこの言葉を今も使わせてもらっています。ABC (当たり前のことをバカになってちゃんとやる) です。■■■